

●取材先●

ビッグパレットふくしま

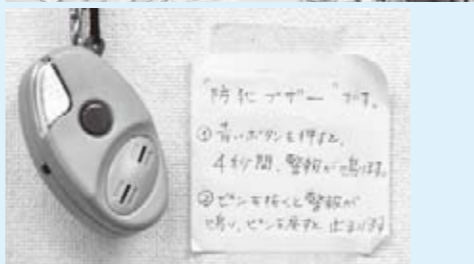


東日本大震災・避難所における 女性専用スペース

～ちょっと息抜き、しっかり生き抜く笑顔の場～



ビッグパレットふくしまBホール入口に設置された女性専用スペース。利用者からは「首・肩こり・リンパマッサージしてもらえると聞いて来ました」「いろんな人と出会えて気分転換になるからいい」「借上げアパートに移ったけど、富岡町の情報が欲しいので週末はここに来ています」など、訪れる理由はさまざま。



団体や個人の善意で集められた防犯ブザーは約200個。女性専用スペースで欲しい方に配布。

避難所の女性は見かけは 明るいけど、心は緊張状態

女性の自立を応援する会は会員約50名。夫婦関係や福祉制度などに関する相談会を開く一方で、DV（ドメスティック・バイオレンス^{※1}）に対する偏見や差別をなくそうと活動している団体です。代表の刈米照子^{かりこみてるこ}さんにお話を聞きました。

「ホッとカフェという相談コーナーを設けたのが、避難所での最初の活動です。同じ頃に女性専用スペース設立の話が持ち上がったので、一緒に活動したいと手を挙げました。避難所の女



「女性の自立を応援する会」代表の刈米照子さん。「避難所では家族の絆が深まったり、些細なことでDVに発展することもある。精神的に追い詰められても逃げ場がなければ解決できません」。

聞き取り調査で、 女性一人ひとりの支援を

「ふだんはひとり親家庭を対象に相談会やセミナーなどの活動を行っています。今回の震災では、女性支援という視点で動いています。震災後は各地区の相談員の協力を得て、県内約250の避難所を回り、女性が必要とする物資の聞き取り調査や個別相談、電話相談を行いました」としんぐるまごあず・ふおーらむ・福島市の理事

「ふだんはひとり親家庭を対象に相談会やセミナーなどの活動を行っています。今回の震災では、女性支援という視点で動いています。震災後は各地区の相談員の協力を得て、県内約250の避難所を回り、女性が必要とする物資の聞き取り調査や個別相談、電話相談を行いました」としんぐるまごあず・ふおーらむ・福島市の理事

東日本大震災で避難所生活を余儀なくされている方々にとって、復旧への道のりはまだ遠く、今もたくさんの方の問題が残っています。そのような中、災害弱者といえる女性や子育て家庭の負担を少しでもやわらげ、安心・安全を守るうと地域の女性支援団体が立ち上がりました。今回は、県内最大規模の避難所・ビッグパレットふくしま(郡山市)に設けられた「女性専用スペース」から生まれた地域の絆をご紹介します。

着替えや授乳、お化粧などに使える 女性専用スペースを避難所に

「ビッグパレットふくしまへの避難者は当初2500人いましたが、仮設住宅や借上げアパートなどに移り、6月末現在で約600人ほど。その4割が女性です。自分たちのふるさとを離れて、知らない土地にきた避難者は毎日不安でいっぱいです」と教えてくれたのは、福島県男女共生センター副主査の長沢涼子^{ながさわりょうこ}さん。震災直後、県庁避難所運営支援チームは、着替えや授乳をする場所がない、夜泣きをなだめる場所がないなどの避難者の声を受けて4月17日に女性専用スペースの場所を確保、そのサポートを福島県男女共生センターに依頼しました。

「避難所で初めに目に飛び込んできたのは、避難者たちの憔悴^{しょうすい}しきった姿。ふつうの身なりで入ることに気が引けて、顔を隠して入っていくような感じでした。元氣な自分が申し訳ないというか」と長沢さん。すべてが手探りで始まった女性専用スペースは、その日にできることをやってみる。を暗黙のルールに中身ができあがっていき



しんぐるまごあず・ふおーらむ・福島市の理事、遠野馨^{とののかおる}さん。「同じ痛みを経験した女性が相談を受けているので、相談者の2次被害を防ぐ効果もあります。今後も女性支援の輪を広げていきたいですね」。

長、遠野馨^{とののかおる}さん。

ビッグパレットふくしままでの調査では、ブラジャーの不足が判明。そこで福島県男女共生センターと協力し、サイズを書き込めるチラシを作成、女性専用スペースやトイレで呼びかけました。その一覧をもとに女性下着の大手メーカーと交渉、ブラジャーの支援を受けることができました。

「現在、震災でひとり親家庭になった方から多くの相談をうけています。今は県内外を問わず、私たちのネットワークを活かして避難者を支援したい」と遠野さんは力強く話してくれました。

ほっと笑顔になれる 地元ならではの女性支援

「避難所の女性の皆さんを少しでも元気づけようと、お料理やお人形さん



郡山市婦人団体協議会会長の小林清美^{こばやしきよみ}さん。「協議会には約800名の会員がいます。できることは限られていますが、皆さんと一緒に楽しめようような支援をしていきたいと思っています」。

ました。この女性専用スペースでは朝9時から夜の9時まで、着替えや授乳、お化粧、おしゃべり、仮眠などに利用することが出来ます。運営は福島県男女共生センターが調整役となっており、女性の自立を応援する会、NPO法人しんぐるまごあず・ふおーらむ・福島郡山市婦人団体協議会の3つの女性支援団体がボランティアで支援協力してくるようになりました。

避難所生活が「日常」になったとき、支援者に求められるのは、頭で考える力よりも、今すぐ動く力。「どんなに仲の良い家族でもほどよい距離感は大変。女性専用スペースで少しでも息が抜ける居場所を作ることができたのが大きな効果。でもここは通過点でしかありません」と福島県男女共生センターでは新たな課題と向き合っています。



福島県男女共生センター副主査の長沢涼子^{ながさわりょうこ}さん。「避難所によって環境や条件はさまざま。今回の女性専用スペースの場合、避難所内に役場機能と社協の窓口があったのが良かったと感じています」。

作り、パッチワークなど、婦人会がこれまで学んだことを中心に支援しています」と郡山市婦人団体協議会会長の小林清美^{こばやしきよみ}さん。中でも公民館を利用したお料理会が好評で、取材時には第2回の開催に向けて準備が進んでいるところでした。「避難所では包丁を持つこともできないですよ。皆さんからアンケートをとって献立を決めて一緒に作って、おいしく食べたあとは、郡山の盆踊りやゲームで盛り上がりました」と小林さん。地元をよく知る婦人会のメンバーのもとには、郡山市の飲食店や手芸用品店などの情報を教えてほしいという相談もあるそうです。

* * *

ビッグパレットふくしま避難所は、震災による応急危険度判定で「要注意」とされながらも被災者を受け入れ、7月中旬をめどに閉鎖する予定です。取材の最後に「避難所では毎日状況が変わります。支援者も被災者。ここにいる方は全員あらゆる意味で余裕がありません。思いっいたら誰かに頼むのではなく、自分がやるしかないんです」と福島県男女共生センターの長沢さん。待ったなしの女性支援はどれも元氣で明快。そして揺るがない使命感に燃えていました。

※1 DV（ドメスティック・バイオレンス）＝夫や恋人など、身近な男性から女性が受ける肉体的・精神的な暴力
※2 ワンストップサービス＝ある分野に関連するあらゆるサービスを、そこに1度立ち寄るだけですべて行えるようにするサービス形態のこと